

THE TOKYO ART BOOK FAIR 2013

2013年9月21日[土]ー23日[月・祝]
京都造形芸術大学・東北芸術工科大学 外苑キャンパス

今年で第5回目となるTHE TOKYO ART BOOK FAIRが、9月21日から23日の3日間、京都造形芸術大学と東北芸術工科大学の外苑キャンパスを会場に開催されました。



本学デザイン学部メディアコミュニケーションデザインコース(MCD)は、このアートブックフェアに昨年から参加しています。

300組にも及ぶ出展があった今回のフェアのなかで、MCDコースの学生によるアートブックの数々は、その内容や形態の面において他のブースと比較して際立った内容の多様さがあり、幅広い分野をカバーするものであったように思います。

paperの語源でもあるpapyrus(パピルス)に文字を記したり、粘土板に文字を刻印したり、人間は記憶・記録を古代から残してきました。

※MCDコースの学生によるアートブックは、11月15日～20日までアート&デザインセンターにて開催された「MCDデパートメント」展でも展示されました。

FUTURE EVENT 01

内面的刺繍表現
テキスタイルデザインコース
卒業生3人展

2013年11月29日[金]ー12月4日[水]
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

テキスタイルデザインコース卒業生堀本有希、小川梨沙、亀井梓による刺繍を用いた表現。



亀井梓 「幻の結合」(部分)

FUTURE EVENT 02

デザイン学部メディアデザインコース
学生作品展

2013年12月6日[金]ー11日[水]
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

「メディア」とは何か、「メディア」によって伝えることはできるのか?
今日のメディアデザインの在り方について、多様な作品を通して表現します。



昨年度のメディアライブの様子

Open 12:15ー18:00(最終日は17:00まで)日曜・祝日休館
入場無料 どなたでもご覧いただけます。
スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。

- 10/4 金→10/9 金 遭遇するドローイング;ハノーファー×名古屋2013
10/11 金→10/16 金 アーティストラジオ/SESSION 大学院同時代表現研究<洋画>&洋画2コース教員展
10/18 金→10/23 金 名古屋芸術大学大学院洋画制作2013
10/25 金→11/2 土 2013年度企画展 多彩なデザインの現場から-デザイン学部特別客員教授展-
11/5 金→11/13 金 2013年度企画展 phono/graph -音・文字・グラフィック-
11/15 金→11/20 金 MCDデパートメント
11/22 金→11/27 金 『幼稚園児たちのゲイジツ』展
11/22 金→11/27 金 『Hand Hospeace : 医療と美術2013』展
11/29 金→12/4 金 洋画2コース選抜展
11/29 金→12/4 金 内面的刺繍表現 テキスタイルデザインコース卒業生3人展
12/6 金→12/11 金 デザイン学部メディアデザインコース学生作品展
12/13 金→12/18 金 こどもの空間 絵本と椅子
12/13 金→12/18 金 2013年度 後期交換留学生作品展
12/20 金→12/25 金 日本画3年作品展
12/20 金→12/25 金 洋画2コース3・4年選抜展「ビルドゥング」
1/10 金→1/15 金 ガラス・陶芸コース2~3年生合同展覧会
1/17 金→1/22 金 美術学部コース展

名古屋芸術大学 Art & Design Center
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL [0568]24-0325 FAX [0568]24-2897

Ble Vol.38
発行日 2013年11月22日
編集 高橋綾子(美術学部美術文化コース)/惣城友美(アート&デザインセンター)
発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp
2012 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of Arts デザイン/印刷 サンメッセ株式会社

編集後記

夏の終わりを惜しむ歌を聴いて見なかった花火を見た気になって、気づけば今年の夏も終わっていたのですが、「夏休み」と聞くと無条件でテンションが上がってしまいます。



最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄大山線(地下鉄有線乗り入れ)徳重-名古屋芸術大学下車西へ約1,000m徒歩15分
※急行一本急電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください
中部国際空港からも名鉄大山線をご利用ください
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります
自動車をご利用の場合
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分

Association Japan University of Arts
大学基準協会認定マーク
本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。
これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

なつやすみの思い出
Summer memories

夏になると、美術館やギャラリーなどでは夏休みの観客をターゲットにした展覧会やイベントが企画され、多くの人で賑わう。そんな今年の夏の大きな目玉は、なんとと言っても「国際芸術祭あいちトリエンナーレ2013」。



菅沼朋香 (2008年度卒業)
『まぼろし喫茶』(長者町 八木兵丸の内8号館4階)
2013年8月10日(土)ー10月27日(日)

現代に残る昭和のかたちを拾い集め、ビルの4階に昭和の喫茶店を蘇らせた。昭和20~30年代の長者町新聞や名古屋タイムズを読み込んで練られた看板達は細部までこだわりが伝わる。



今年の夏の思い出
あいちトリエンナーレ作品の制作がとにかく暑くて頭がクラクラしていました。夏の終わりに行った助手旅行では奥飛騨で昭和な旅館を満喫しました。

AMR 『search for』(長者町 丹羽株式会社ミクス館ショーウインドウ)/現代美術展 企画コンペA日程
2013年8月10日(土)ー9月16日(月・祝)

浅井雅弘、前川宗陸、河村みのり3人による「街との関係性」をテーマにしたプロジェクト。浅井は長者町のある場所から赤い風船を飛ばして撮影し、それがtwitterにアップされ、ショーウインドウの中にあるプリンターから自動的にプリントされ続ける。



今年の夏の思い出
浅井雅弘 (2011年度修了)
暑い中、赤い風船を持って長者町を歩いたこと。あ、クーラーがAMRに入ったこと。

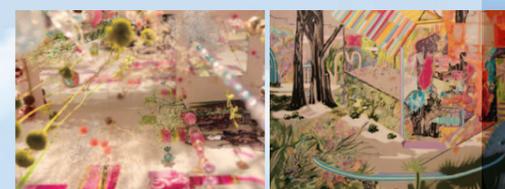
前川宗陸 (2011年度修了)
トリエンナーレの企画コンペのプロジェクトのためショーウインドウの中でずっと制作していました。気がついたらおかわっていました。

河村み (2004年度卒業)
女川アートシーズンというイベントで坂茂さんの関わった仮設住宅で子供達と行ったワークショップ。一番の思い出は、フェリーで仙台まで行って帰ってきた事。フェリーの何もない時間がたしかだった。

水野里奈 (2012年度卒業)

『シュヴァルの理想宮』(長者町 ARTISANビル1階内壁)/現代美術展 企画コンペA日程
2013年8月10日(土)ー9月16日(月・祝)

ビルの通路を覗くと内壁にオブジェを挟んで2枚の絵が掛けられている。「シュヴァルの理想宮」とは、郵便配達人シュヴァルが道にあった小石を拾って完成させたというフランスに実在する宮殿。一見甘くかわいらしい色の中に不協和音のように入り込む独特の色彩が印象的な世界をつくっている。

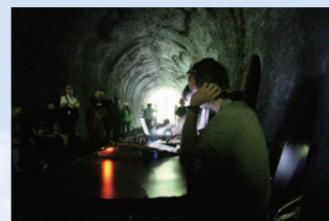


今年の夏の思い出
あいちトリエンナーレ一色でした。展示期間中は名古屋にいて展示案内などしていました。遠方から知人・友人も見に来てくれて、搬入搬出は名芸の友人達に手伝ってもらったりと学部生に戻ったようで楽しかった。最後にお世話になったスタッフの方にお手紙を渡した時は泣いて喜んでくれて、こんな機会を頂けて本当に感謝です。



Softpad「1961」

廃線直前の1961年当時の中央線時刻表をもとに蒸気機関車の音を再現するサウンドインスタレーション。入口に貼られている時刻表の時間に、かつて通った上下線の運行に合わせて見えないSLがトンネル内を走り抜ける。



10月6日(日)には作品の展示されている4号トンネル内にサウンドパフォーマンスが行われた。

名古屋、岡崎などで「あいちトリエンナーレ」が開催される中、愛知県春日井市や常滑市でもアートやデザインの展覧会が開催された。

なつ・や・す・みの
Summer memories
思い出

現代アートとデザインの展覧会
常滑フィールド・トリップ 2013
2013年10月5日(日)ー10月13日(日)

焼き物の町として歴史と風土が色濃く残る常滑の町並みで開催されるアートイベント。起伏のある細い路地で結ばれた10会場に21組の参加者が作品を発表した。2008年から始まり、今年で6回目を迎える。

re-design2013/ 名芸 平田グループ+「ジャングルハウス」

旧北保育園のジャングルジムをre-designした。制作過程においては常滑の子ども達も交えて保育園の園庭に埋まっていたジャングルジムの引っこ抜いた。ジャングルジムの外側を残し、その中に骨組みを利用したテーブルや椅子を配置した。ジャングルジムの「登れる」という機能はそのままに、小空間が生まれた。



愛岐トンネル群・アートプロジェクト2013 荒野ノヒカリ

2013年9月7日(土)ー10月27日(日)の土・日曜日、祝日の19日間

JR中央線定光寺駅のほど近く、庄内川沿いに位置する旧国鉄中央線廃線跡「愛岐トンネル群」。1966年に廃線になった後40年余の間、トンネル空間はすっかり藪に埋もれ、人々の記憶から忘れ去られていた。しかし、7年前に地元有志によって整備が着手され、現在はNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」によって春日井側のトンネル空間が春と秋に限定公開されるようになった。そんな産業遺産群と歴史遺産、そして美しい自然が三位一体となったこの空間で、本学の高橋綾子(美術学部准教授)がプロデューサーとなり、現代美術の展覧会が開催された。4基のトンネルと線路跡に9組の作家による作品が展開され、本学教員の竹内創(softpad/デザイン学部准教授)と山田亘(写真作家/非常勤講師)も参加した。

他の出品作家: 占部史人、丹羽康博、相田明、野村幸弘、藤本由紀夫、鈴木昭男、ドリアン助川

山田亘 「あめつちのうた」

トンネルとトンネルを結ぶ長い小道に、どこからか言葉が聞こえてくる。平安期の源順(みなもとのしたごう)による48首の歌と基本の音の組み合わせの朗読がスピーカーから流れている。幼い女の子のようでもあり大人の女性のような不思議な声で紡ぎだされる言葉の連なり。その歌を知らずともノスタルジックなストーリーに入り込んだような感覚に引き込まれる。



10月12日(土)には6号トンネル奥の出口付近にて、麻原奈未(劇団オートバイ)との共演による演劇「下弦の國」かげんのくに が上演された。

(☆)撮影/山田亘
(○)撮影/藤井昌美



こどもの視展/ 名古屋芸術大学<こどもdesign project>

今年8月、常滑市の小学生12名を対象にワークショップを開催した。絵本を読み、こどもたちとまち歩きをした後、歩いた体験から各々が動物や虫などの変装グッズを制作し、そのものになりきり常滑のまちを散策した。ワークショップ終盤には変装して見た街の風景と、自分のなりきったものを主人公にした絵本をそれぞれが制作した。また「こどもの視展」では、映像をはじめ実際にこどもたちが変装した衣装などの記録展示を行った。



REVIEW

吉岡弘昭 解き放たれた約束『全版画 1967~2013』出版記念展

2013年9月20日[金]ー25日[水]
名古屋芸術大学アート&デザインセンター



展示風景

記念鼎談「吉岡弘昭 版画藝術の神髄」 2013年9月20日[金] 名古屋芸術大学西キャンパスB棟大講義室



記念鼎談(左から 松山龍雄氏、吉岡弘昭氏)



記念鼎談の様子



「The Dog (Gray)」(撮影:山口幸一)



「Qの像2012」(撮影:山口幸一)



芸術一話 第14話 人間の記憶は確かか



ワルシャワ歴史地区の風景

造形作家
庄司 達
Satoru SHOJI

名古屋のように第二次大戦でアメリカ軍の爆撃で名古屋城を含む市街地の大半が全焼し、礎石だけになった街は、東京、大阪を始め数十都市に上る。七十年近くを経た現在、これらの都市の街の風景は爆撃前とは殆んど異なる。新しいデザインとスケールの建物に変えられて、以前の景色を想像することは不可能である。私は1998年、ポーランドでの展覧会で首都であるワルシャワに宿泊する機会があり、噂で聞いていた旧市街地区の復元の様子を、この目で確かめようと歩いて回った。予め見ていた写真では瓦礫と化していた王宮や教会をはじめ、歴史地区の建物の全てが復元されていた。中には壁に入ったひびを残すのに、傷をつけ色を

塗りこんでまで当時を再現しているのには、そこまでやるかと思うほどであった。ワルシャワ70万の人口は解放直後には16万となっていた。生き残った市民を中心に残された写真や絵画、そして市民各自の記憶を頼りに作図し、30年以上を経て見事に完了した。新しく造った都市にもかかわらず、1980年、最初の世界文化遺産に登録された。ポーランド民族、その中核ワルシャワ市民のアイデンティティの復元はワルシャワの歴史地区の完全な復元、という強い意志と努力が認められたのだ。私たちの記憶は人々の心の中だけでは次第に薄れ、変質してしまうものだ、という人間観、世界観を実践で証明したのだ。